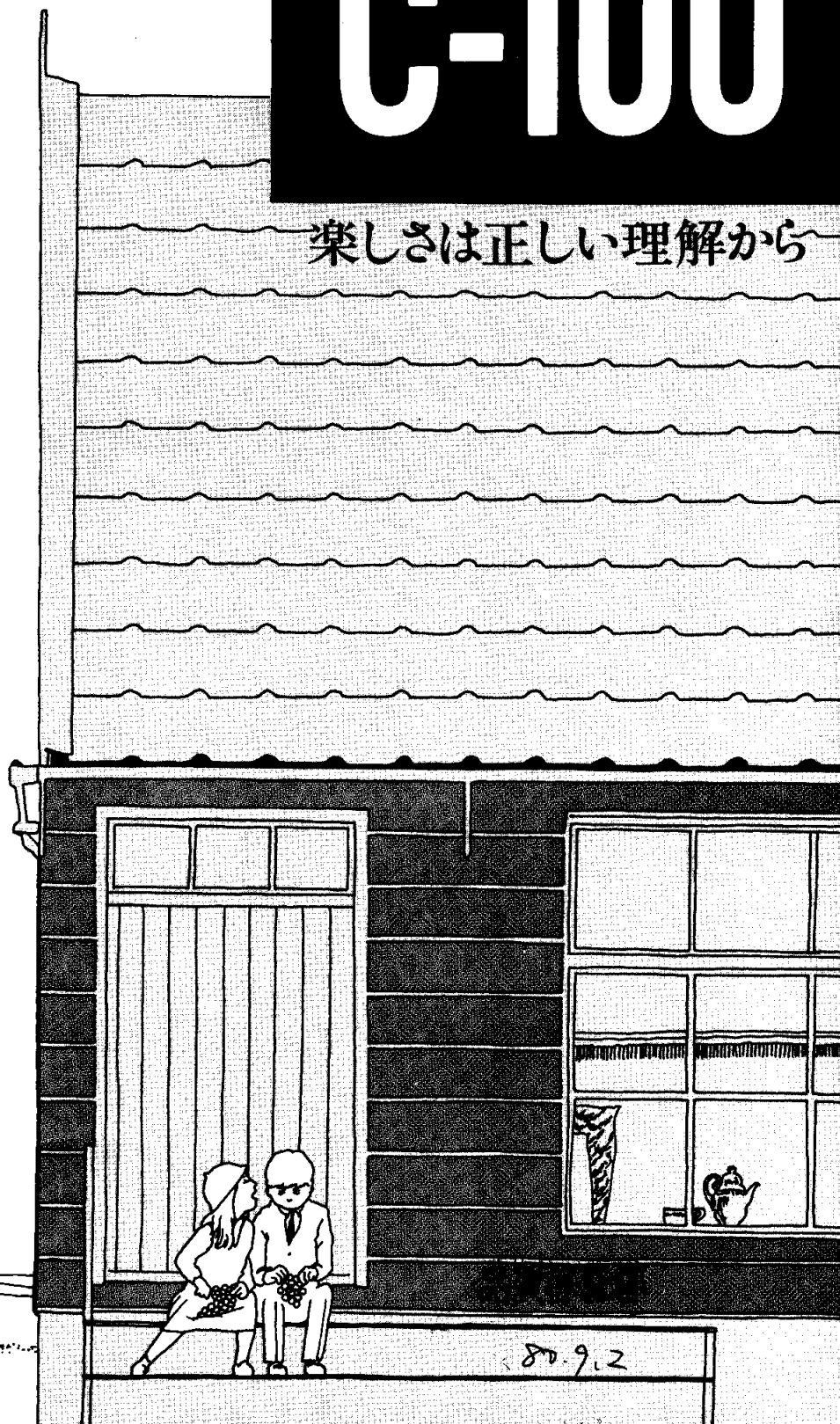


YAMAHA ELECTONE®

取扱説明書

C-100

楽しさは正しい理解から



80.9.2

ごあいさつ

このたびはヤマハエレクトーンをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。エレクトーンは楽器づくり90年の経験をもとに、ヤマハが精魂こめてつくりあげた電子オルガンです。(エレクトーンはヤマハ電子オルガンの商品名です)。

エレクトーンはさまざまな楽器の音色を持ち、初心者の方でも手軽に楽しめる機能を数々取り入れていますから、ご家族の皆様全員でご愛用いただけます。

本書ではエレクトーンの持つ多彩な機能を十分に楽しんでいただくため、正しい取り扱い方をご説明します。ぜひ譜面立てに置き、実際にエレクトーンを操作しながらお読みください。

目次

	ページ
1. 楽しさは正しい理解から	2
2. まず音を出してみましょう	4
3. それぞれの機能の楽しみ方	
その1	6
その2	8
その3	12
● 仕様と音域表	13
● 付属端子と音のエチケットについて	14
● 長くお楽しみいただくために	15
● エレクトーン教室のご案内	
● こんな現象は故障ではありません	16
● サービスと保証について	18
● エレクトーン豆知識	20

1 楽しさは正しい理解から

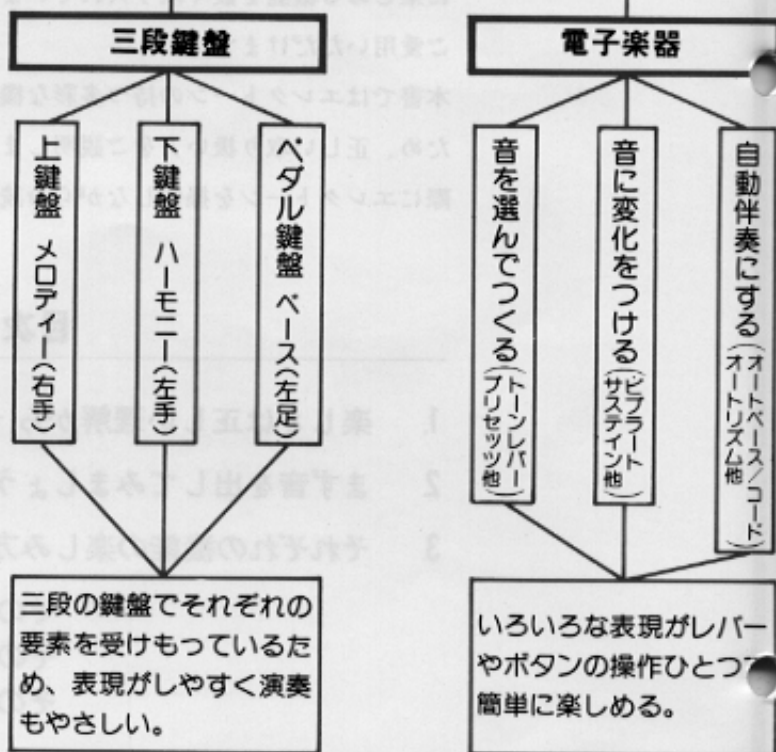
★エレクトーンはこんな楽器です。

エレクトーンは少しでも多くの人々に、楽器を演奏する楽しさを知っていただきたいという考えから生まれた、楽しく、やさしい楽器です。エレクトーンはメロディー、ハーモニー、ベースという三つの要素をそれぞれの鍵盤が一つずつ受け持ち、それらの要素を一つずつ加えていけば完成された音楽になります。ちょっと見ると三段も鍵盤があって難しそうな感じがしますが、この方が簡単に演奏ができるのです。

また、レバーやボタンの操作ひとつで、いろいろな楽器の音が出せ、それらを組み合わせたり、変化をつけたりもできます。その上、指一本で和音がリズムに合わせて鳴る自動伴奏もできますから、いろいろな表現を簡単に楽しむことができます。



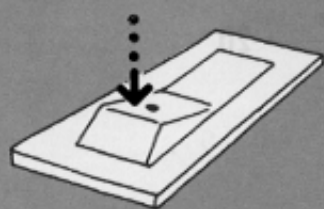
エレクトーンの特徴



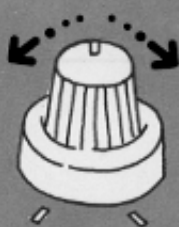
楽しく、やさしい楽器

★レバーやボタンなどの操作のしかた。

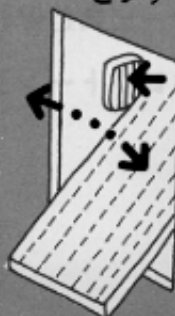
電源スイッチ



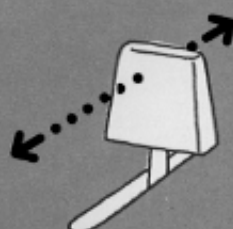
つまみ



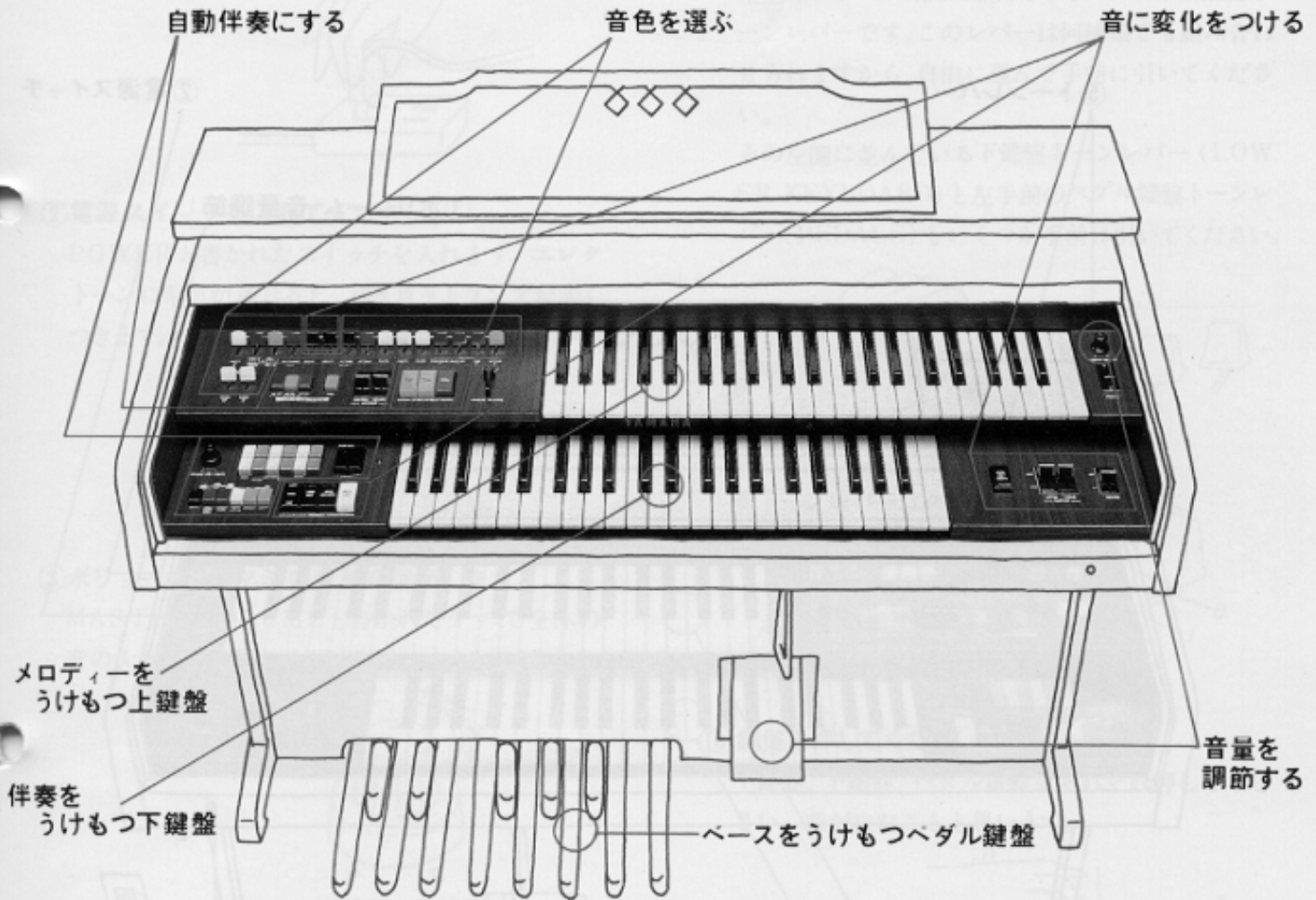
エクスペッションペダル
とフットスイッチ



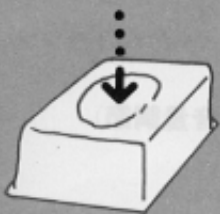
トーンレバー



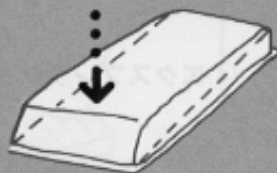
★各装置の役割



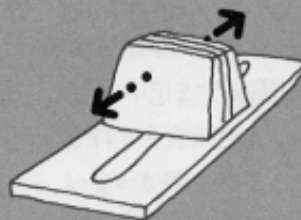
セレクトボタン



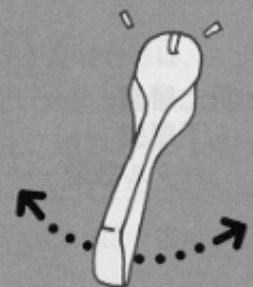
タブレット



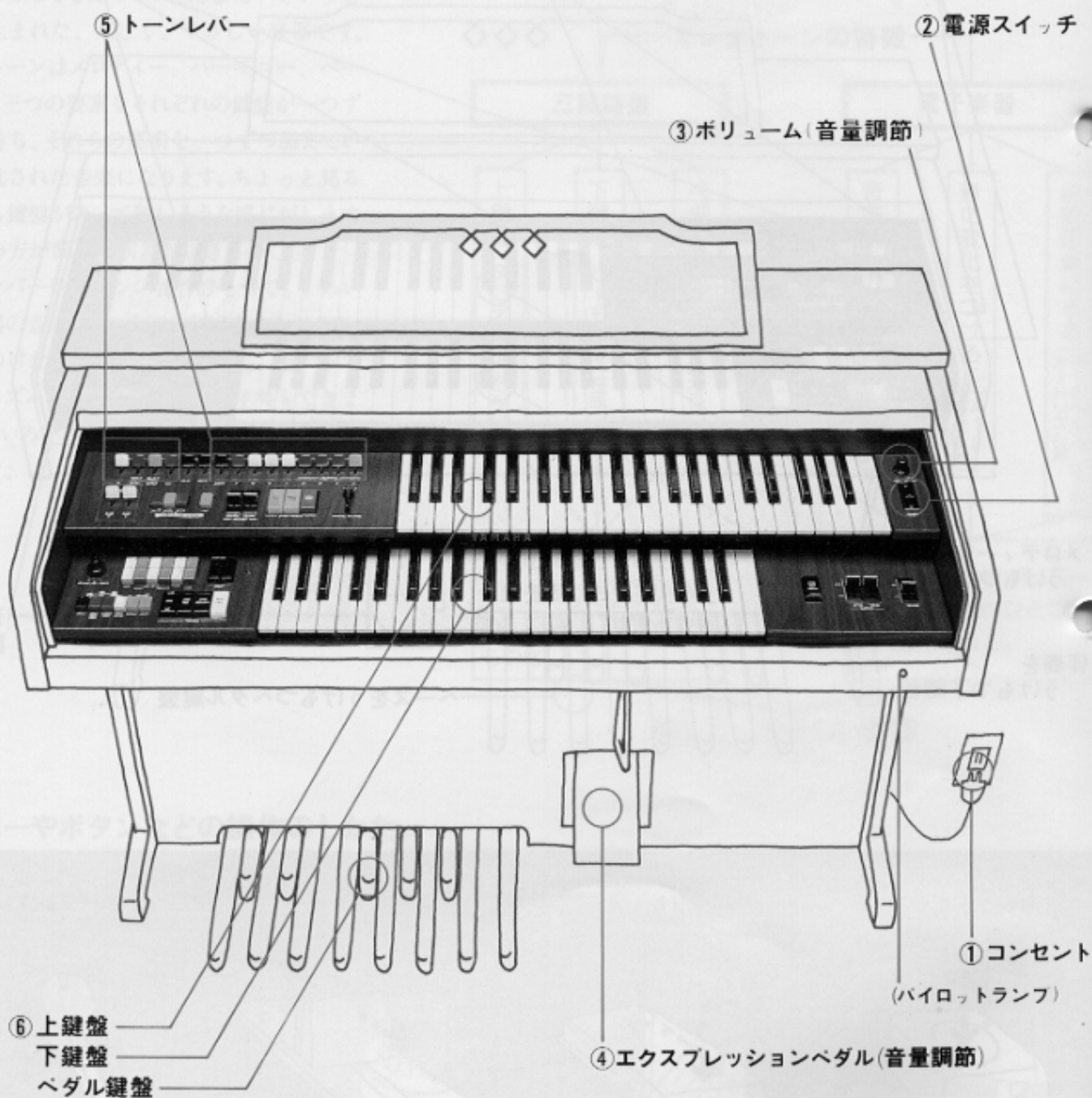
スライドレバー



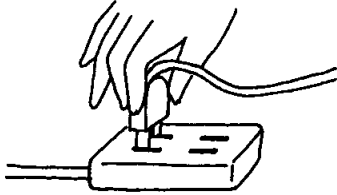
マニュアルバランスレバー



2 まず音を出してみましよう

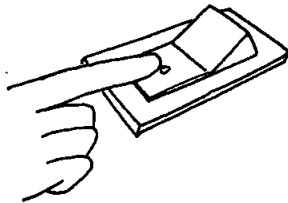


① 電源コードをコンセントに差し込んでください。



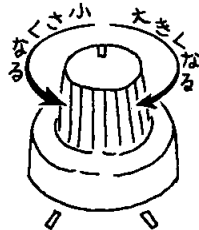
② 電源スイッチを入れてください。

POWERと書かれたスイッチを入れます。エレクトーンに電気が通じると、パイロットランプが赤くつきます。



③ ボリュームのつまみで音量を調節します。

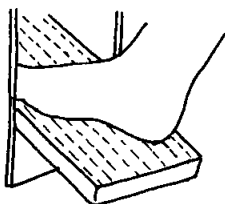
MASTER VOLUMEと書かれたつまみで全体の音の大きさを調節してください。



MASTER VOLUME

④ エクスプレッションペダルでも音量を調節します。

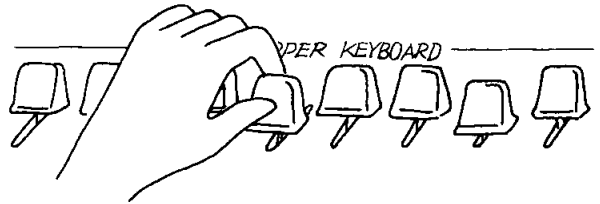
ペダル鍵盤の右側にあるペダルを踏んでください。これはエクスプレッションペダルといって、演奏しながら音量を調節するペダルです。これが戻っていると音が非常に小さくなります。



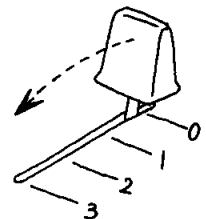
⑤ トーンレバーで音色をセットしてください。

左上のパネルの右側に並んでいるレバーが上鍵盤トーンレバーです。このレバーは何種類でも組み合わせられますから、自由に選んで手前に引いてください。

その左側に並んでいる下鍵盤トーンレバー (LOWER KEYBOARD) と左手前のペダル鍵盤トーンレバー (PEDALS) もいくつか手前に引いてください。

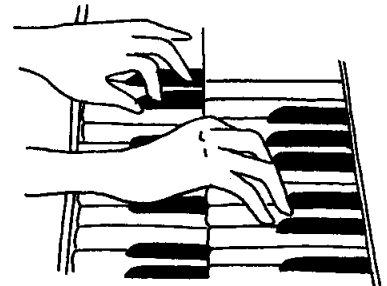


※ トーンレバーはクリックストップ式といって、引く途中2カ所に軽い手応えがあり、手前に引くほど音が大きくなります。



⑥ 鍵盤を押してください。

上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤をそれぞれ押してください。音が出たことと思います。



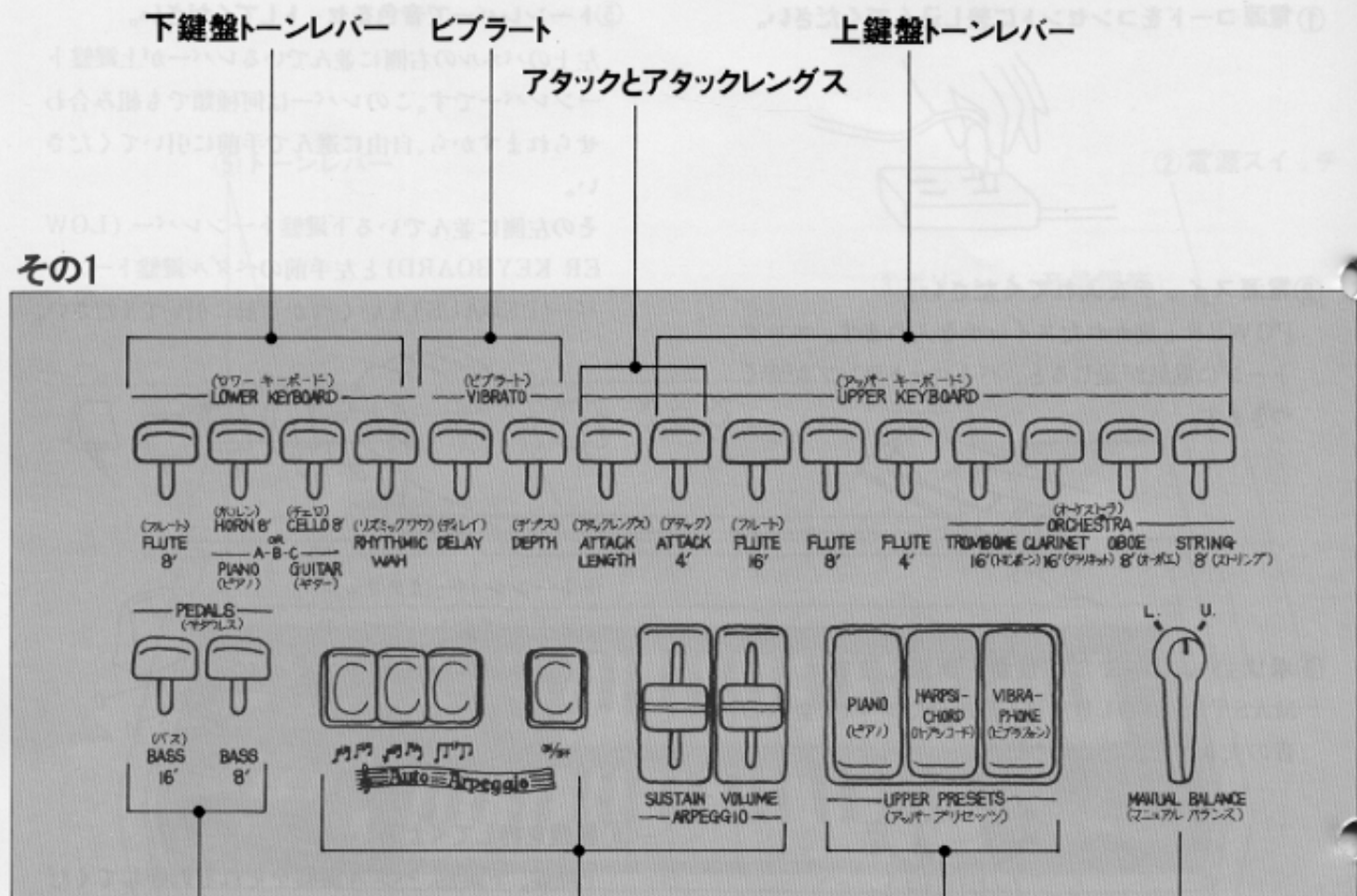
★音が出なかったり、小さすぎた場合には、もう一度、①から⑤まで見落としがないか確認してください。

それでも音が出ない場合は、他のボタンが押されていないか確かめてください。ただし、[A]uto [B]ass [C]hordと書かれているところのボタンは一番左の黒いボタンを押しておきます。

3 それぞれの機能の楽しみ方

ここからのページではエレクトーンのいろいろな機能をパネルごとに説明します。

その1



ペダル鍵盤トーンレバー

オートアルペジオ
(9ページで説明します)

アッパープリセット

マニュアルバランス

●上鍵盤トーンレバー(オルガンの音色)

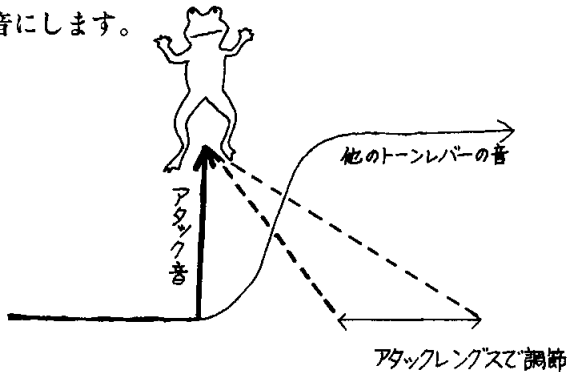
上鍵盤の音色をつくるレバーで8種類あります。このトーンレバーはいくつでも組み合わせることができます。

★8'は8フィートと読みます。フィート数のちがう音を組み合わせると、いくつもの鍵盤をおさえたのと同じような音が得られます(カプラー効果)。

フィート数	実際に出る音	使われかたの例
16'	1オクターブ下の音	厚みを加える
8'	押した鍵盤と同じ音程	基本的な音
4'	1オクターブ上の音	8'に強さと明るさを加える

●アタックとアタックレングス

アタックは他のトーンレバーなどと組み合わせて使う音色で、音の立ち上がりを鋭くし、歯切れのいい音にします。



アタックレングスは、このアタック音の長さを調節するレバーで、手前に引くほど消えるまでの時間が長くなります。

●アッパープリセット

実際の楽器音により近い音色があらかじめセットされていて、このタブレットのひとつを選んで押すと、トーンレバー音色が出なくなり、アッパープリセット音色が上鍵盤で出せます。

※2つ以上押した場合は右側の音色だけがでます。

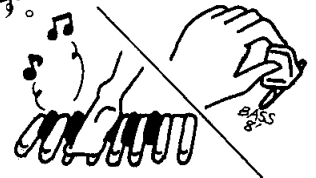
●下鍵盤トーンレバー

下鍵盤の音色をつくるレバーで4種類あり、いくつでも組み合わせることができます。

※リズムミックワウのレバーをオートリズム(9ページ参照)と一緒に使うと、リズムに合わせて音が“ワウ”という感じで出ます。

●ペダル鍵盤トーンレバー

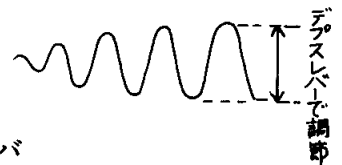
ペダル(足)鍵盤の音色をつくるレバーで、2つのレバーを組み合わせられます。



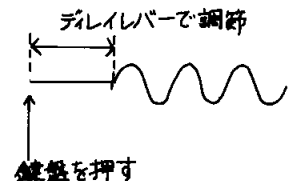
●ビブラート

草笛のように音をこきざみにふるわせ、うるおいをつける効果です。

DEPTH(デプス)レバーを手前に引くほど音のふるえ方が大きくなります。



DELAY(ディレイ)レバーと一緒に入れると、鍵盤を押してから間をおいてビブラートがかかります。



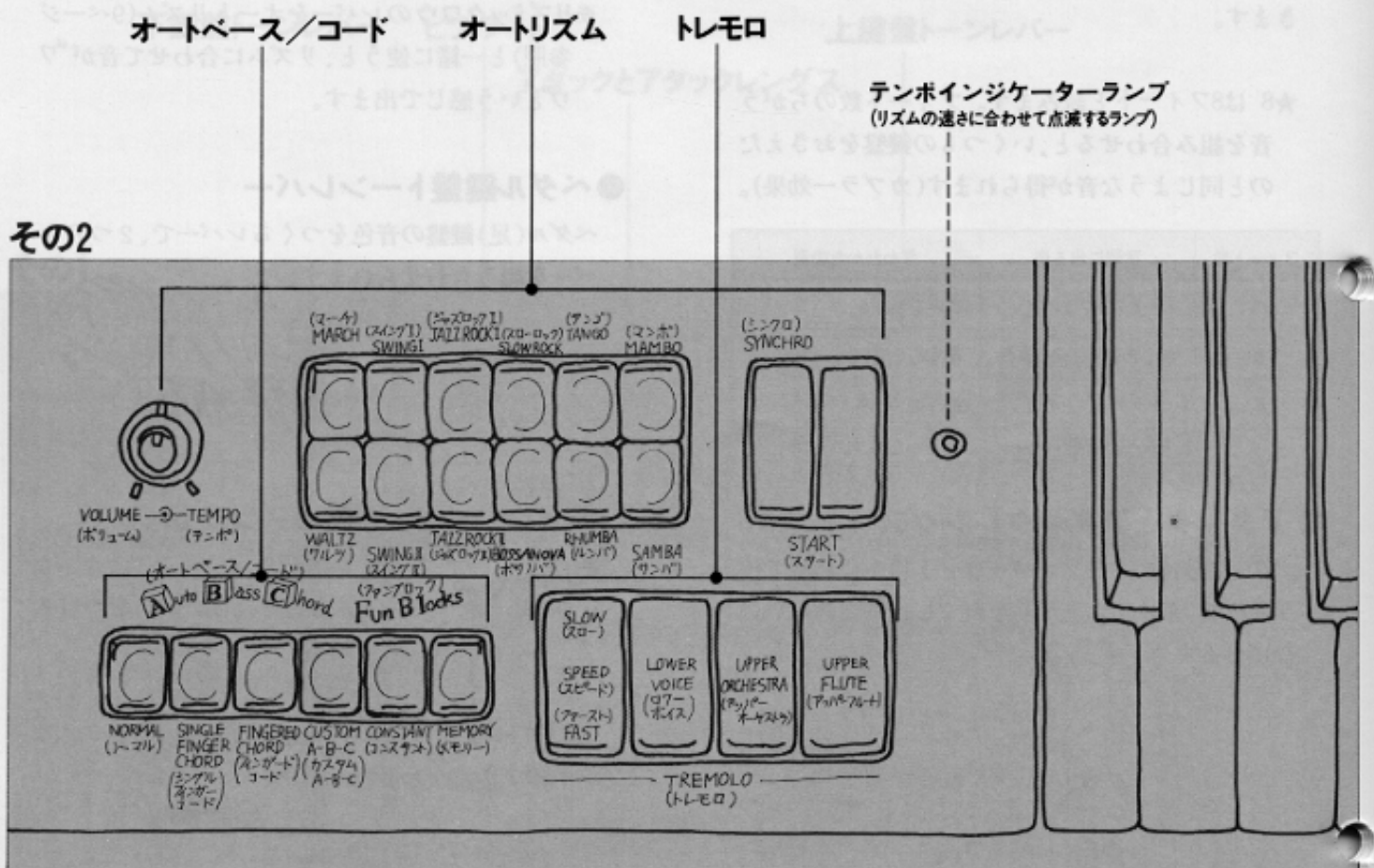
※ディレイビブラートはデプスレバーを入れておかなければかかりません。また、上鍵盤の音にしか使えません。

●マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスをとるレバーです。普通は白い線が少しU(上鍵盤)の方にくるようにします。

3 それぞれの機能の楽しみ方

その2



●トレモロ

音をふるわせ、広がりを持たせる効果で、トーンレバーの音色にかけられます。4つのタブレットの働きはそれぞれ右の表のとおりですが、いくつでも入れることができます。

タブレット	使い方
アッパーフルート(白)	上鍵盤トーンレバーのフルート音色にトレモロをかけます。
アッパーオーケストラ(黒)	上鍵盤トーンレバーのオーケストラ系音色にトレモロをかけます。
ロワーボイス(黒)	下鍵盤のトーンレバー音色にトレモロをかけます。
スロー/ファースト(黒)	トレモロの速さを変える働きをします。



●オートリズム

シンバル、ドラム、ボンゴなどの打楽器音で歯切れのよいリズムを自動的にきざむ機能です。また、オートアルペジオ、オートベースコードのスイッチの役割もします。

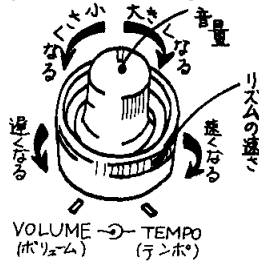
①MARCH、WALTZ(マーチ、ワルツ)などと書かれた12のボタンの中から、お好きなものを選んで押してください。

②START(スタート)の2つのタブレットのうち、右側を入れるとリズムが鳴りはじめます。

※右側のタブレットをもどし、左側のSYNCHRO(シンクロ)を入れると、下鍵盤かペダル鍵盤を押すと同時にリズムが第一拍目から鳴りはじめます。

③VOLUME⇄TEMPO(ボリューム⇄テンポ)の内側のつまみで音量を調節してください。

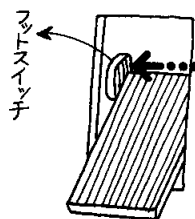
外側のつまみではリズムの速さを調節します。



★リズムを選ぶセレクトボタンを同時に2つ以上押せば、リズムが組み合わせられます。

★テンポインジケータランプはリズムの第一拍目に赤く点滅します。シンクロを使うときは下鍵盤かペダル鍵盤を押さないとリズムが鳴りませんが、ランプは4分音符の単位で点滅しますから、リズムの速さを目で確認できます。

★フットスイッチを右足で押すとオートリズムを止めることができます。再び鳴らしたいときはもういちど押してください。



●オートアルペジオ (パネルは6ページ参照)

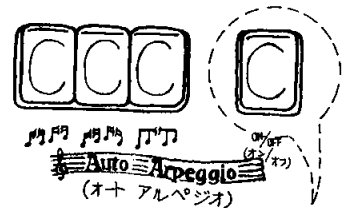
アルペジオというのは、ハーブのように音を連続的にかなでる奏法のことです。

オートアルペジオは、このアルペジオのパターンがあらかじめセットされていて、自動的にアルペジオ伴奏をきざむ機能です。

①まず、オートリズムをセットしてください。このときスタートのタブレットはシンクロを入れておきます。

※オートリズムはオートアルペジオと連動していて、スイッチの役割もしますから、必ずセットしてください。

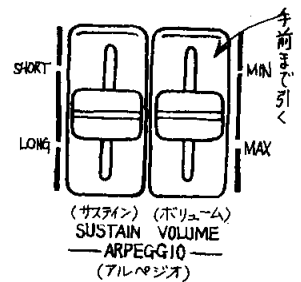
②Auto Arpeggio(オートアルペジオ)と書かれている3つのボタンの中から、お好きなパターンを選んで押してください。



③ON/OFF(オン/オフ)の黄色のボタンを押してください。

④VOLUME(ボリューム)のレバーを手前に引いて、アルペジオの音量を調節します。

※SUSTAIN (サステイン)のレバーを手前に引くと、アルペジオの音が自然に消えていく感じになります。



このようにセットして、下鍵盤をおさえると、その音をもとにアルペジオがかかります。

●オートベース/コード(ABC)

下鍵盤をおさえるだけで、下鍵盤とペダル鍵盤の音の和音伴奏がつくれ、さらにオートリズムに合わせて自動的にきざまれる自動伴奏機能です。

まず、指一本だけによるリズム伴奏のつけ方を説明します。

①まずオートリズムでお好きなリズムをきざませます。(9ページ参照)

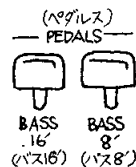
※オートリズムはオートベース/コードと連動していて、スイッチの役割もしますから、必ずセットしてください。

②次に下鍵盤トーンレバー(6,7ページ参照)のうち、PIANO(ピアノ)、GUITAR(ギター)と書いてあるレバーを手前に引いてください。

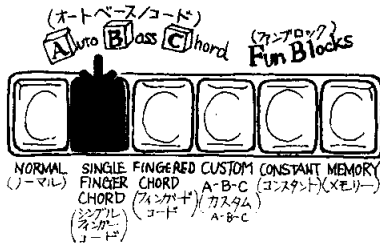
これらはABCトーンといって、オートベース/コードを使うときの下鍵盤の音色になります。

※下鍵盤のフルート音色は (ローキーボード) LOWER KEYBOARD
リズムをきざまず、和音の持続音になります。

③ペダル鍵盤トーンレバー(6,7ページ参照)もいくつか手前に引いてください。

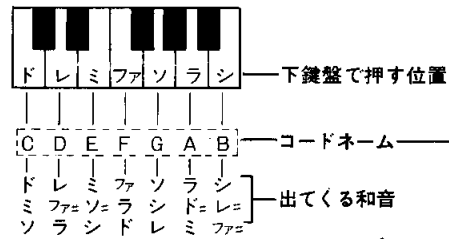


④SINGLE FINGER CHORD(シングルフィンガーコード)と書かれた緑色のボタンを押します。

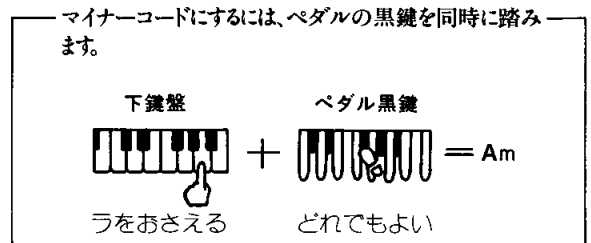
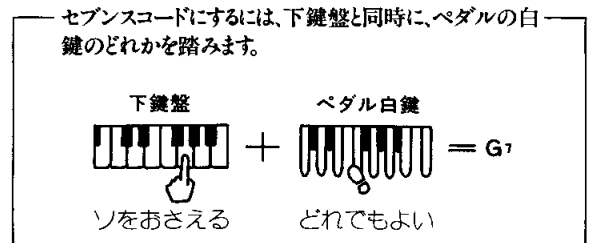


このようにしてから下鍵盤のひとつを押すと、押された音がドの場合、ドミソの和音がリズムによってきざまれます。

★下鍵盤で押す位置とでてくる和音(コード)の関係は下図のとおりです。コードネームの書いてある楽譜で、Cとある場合は下鍵盤のドを、Fとある場合はファをおさえればいいわけです。



★セブンスコード、マイナーコードの場合。たとえばG7, Amというようなコードネームが楽譜に書かれているときは、ペダル鍵盤を一緒に踏むことで、その和音がでます。



m7(マイナーセブンスコード)ではペダルの白鍵と黒鍵の両方を踏みます。

★FINGERED CHORD(フィンガードコード)の使い方。

まずオートリズムとトーンレバーをセットしておきます。

次に赤いフィンガードコードのボタンを押します。このボタンにすると指一本ではなく、下図のようにおさえた通りの和音でリズム伴奏をきざみます。コードを知っている方はシングルフィンガードを使うよりも便利かもしれません。



★MEMORY(メモリー)の使い方。

他のABCのボタンと一緒に押すと、下鍵盤から指を離しても、自動伴奏の音がそのまま鳴り続けます。これを使うとコードの変わる場所だけで鍵盤を押しなおせばよいわけです。

★その他のABCボタンの使い方。

CONSTANT(コンスタント)

シングルフィンガードコードのボタンと一緒に押すと、オートリズムが下鍵盤、ペダル鍵盤の音から切り離され、リズムはリズムで鳴り、下鍵盤の和音とペダル鍵盤のベース音は持続音で鳴り続けます。メロディーがリズムに追いつかない方には便利です。

CUSTOM A-B-C(カスタムABC)

自動伴奏において下鍵盤とペダル鍵盤の音の連動が切り離され、別々にオートリズムにのります。下鍵盤とペダル鍵盤を別々におさえないければなりません、別々に練習できる便利さもあります。

NORMAL(ノーマル)

オートベース/コードを使わない時はこのボタンを押してください。オートベース/コードが働かなくなります。

★オートアルペジオとの組み合わせかた。

オートベース/コードはオートアルペジオと組み合わせることができます。この場合ABCボタンとオートアルペジオの両方をセットしてください。(9ページ参照)。

シングルフィンガードコードの場合

下鍵盤を指一本でおさえると、リズム伴奏と、押した音を基音にした和音でアルペジオ伴奏が鳴りはじめます。より美しいアルペジオが簡単に得られます。

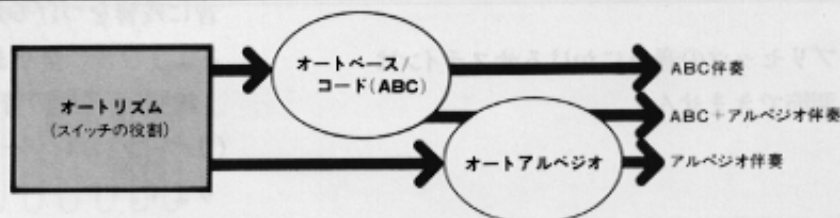
その他のABCボタンの場合

リズム伴奏とともに、下鍵盤でおさえた音を使ってアルペジオ伴奏がきざまれます。

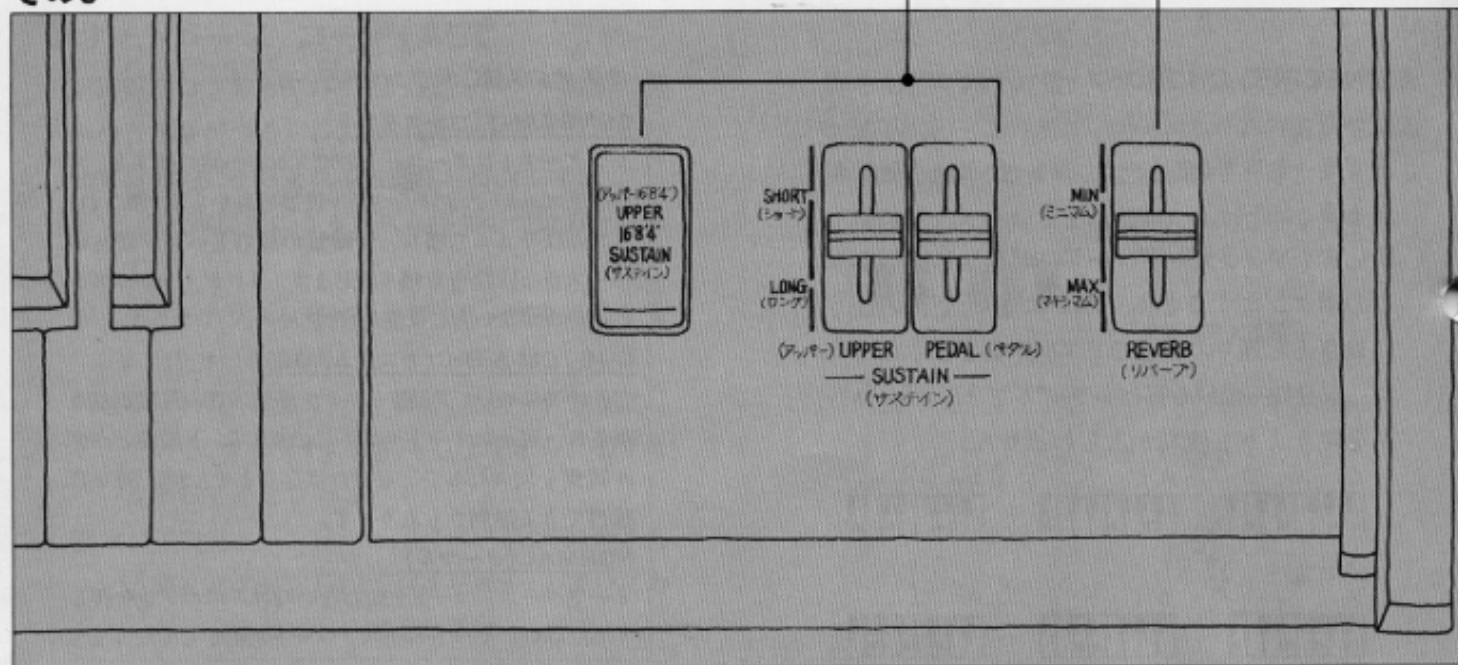
メモリーを使った場合

メモリーボタンを押しておく、下鍵盤から指を離しても同じアルペジオ伴奏がくり返されます。

★自動伴奏機能の関係図



その3



● サステイン

サステインとは、鍵盤から指を離したあと、音に余韻をつける効果のことです。

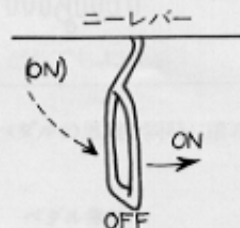


上鍵盤のトーンレバーとアッパープリセット音色にサステインをかけたいときには、UPPER 16' 8' 4' SUSTAINのタブレットを入れ、UPPERのレバーで余韻の長さを調節します。

ペダル鍵盤のサステインはPEDALのレバーを手前に引くだけでかかります。

★アッパープリセットの音色にかけるサステインはレバーで調節できません。

★ニーレバーを使うと、演奏中でも簡単にサステインがかけられます。あらかじめサステインのタブレットとレバーをセットして、ニーレバーを立てておきます。右膝でレバーを右に押し、任意にサステインがかけられます。



● リバーブ

音に残響をつける効果で、大ホールで演奏しているような音になります。

上鍵盤と下鍵盤の音色にかけることができ、REVERB (リバーブ)のレバーを手前に引くほど残響が長くなります。

仕様と音域表

★仕様

●鍵盤

上鍵盤：44鍵(f~c4)

下鍵盤：44鍵(F~c3)

ペダル鍵盤：13鍵(C~c)

●トーンレバー

上鍵盤：フルート16'・8'・4'、トロンボーン16'、クラリネット16'、オーボエ8'、ストリング8'、アタック音=アタック4'

下鍵盤：フルート8'、ホルン8'、チェロ8'、リズムミックワウ（ABCトーン=ピアノ、ギター）

ペダル鍵盤：バス16'、バス8'

●アッパープリセット

ピアノ、ハーブシコード、ピブラフォン

●コントロールレバー(エフェクトレバー)

アタックレングス、ピブラート=ディレイ・デプス、マニュアルバランス、アッパーサステイン、ペダルサステイン、リバーブ

●タブレット

トレモロ=スロースピードファースト・ローボイス・アッパーオーケストラ・アッパーフルート、アッパーサステイン

●オートリズム

セレクトボタン：マーチ、ワルツ、スイングI・II、ジャズロックI・II、スローロック、ボサノバ、タンゴ、ルンバ、マンボ、サンバ

リズムコントロール：スタート、シンクロ、ボリューム、テンポ、テンポインジケータランプ、フットスイッチ

●オートベース/コード

セレクトボタン：ノーマル、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムABC、コンスタント、メモリー

●オートアルペジオ

セレクトボタン：3パターン、ON/OFFスイッチ、ボリューム、サステイン

●その他

マスターボリューム、パワースイッチ、パイロットランプ、ニールレバー、エクスプレッションペダル、ヘッドホンジャック、AUX-OUTジャック、AUX-INジャック、EXP-INジャック、スイッチドACコンセント

●メインアンプ

30W

●スピーカー

30cm、5cm各1

●定格電圧100V、定格消費電力40W、定格周波数50/60Hz

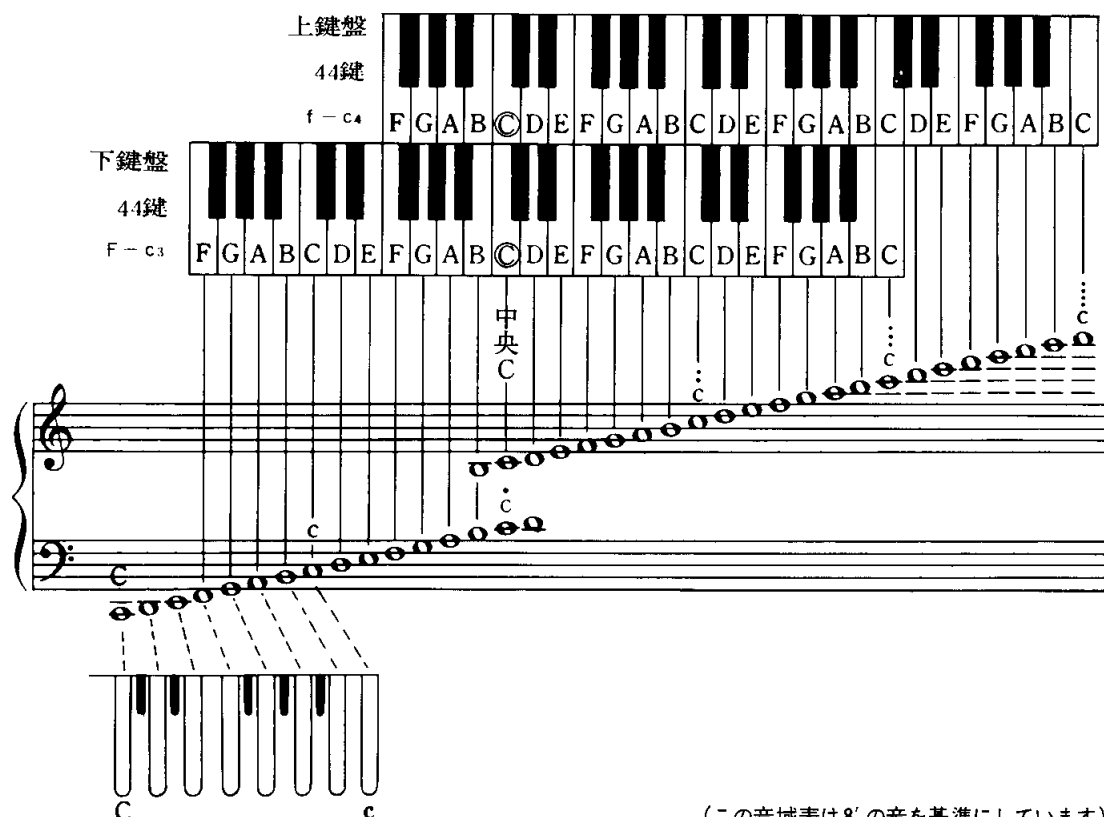
●寸法

間口113.6cm、奥行55.5cm、高さ94.3cm(譜面台を立てた時109.0cm)、重量55kg(椅子別)

●外装

ウォルナット柄メラミン化粧(ユニボード)

★音域表



(この音域表は8'の音を基準にしています)

付属端子と音のエチケットについて

●付属端子(ニーレバーの右の方にあります。)



●AUX-IN(ライン入力端子)はレコードやテープの音をエレクトーンのスピーカーを使って出し、これに合わせて演奏することができるものです。

●AUX-OUT(ライン出力端子)はエレクトーンで演奏した音をテープに録音したり、他のアンプに接続する時に使うものです。

●EXP-IN(EXP運動入力端子)はリズムボックスやシンセサイザーなどを接続して、エレクトーンのエクスプレッションペダルで音量を調節しながら演奏できるものです。

●HEADPHONE(ヘッドホン端子)はヘッドホンと接続するためのものです。ジャックを入れると、エレクトーンのスピーカーからは音が出ません。

●ACコンセントはテープレコーダー専用です。消費電力が30W以上のものは使用しないでください。また、このコンセントはエレクトーンのパワースイッチがはいていないと使えません。

なお、カセットテープレコーダーEC-500を使うときは、AUX-INにつないでください。その他のテープレコーダーは、録音するときはAUX-OUT、再生するときはAUX-INにつないでください。AUX-IN、AUX-OUTの端子に同時にコードを接続すると、ハウリングという現象を起こしますので避けてください。

●音のエチケット

私たちの日常生活と音は切っても切れない関係にあります。音がしなくなったら、それこそたいへんです。でも、いくらきれいな音でも雑音と同じように感じる時だってあります。自分が気持ちよく演奏していても、他人にとっては迷惑なこともあるのです。ですから、特に人が眠るような時間に音を出すことは、避けてはなりません。いくら窓を閉め切っても、音はどこからか伝わってしまいます。そんな時はぜひヘッドホンをお使いになって、心ゆくまで演奏をお楽しみください。音についても私たちは互いにゆずりあい、やさしい心づかいを示すのがエチケットです。美しい音楽を愛されると同時に、住みやすい環境をご自身の手で守ってくださいますよう、皆様のご協力をお願いいたします。



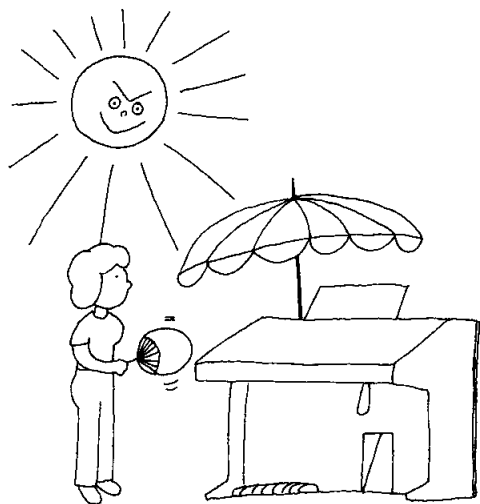
ヘッドホンHP-50A(別売)

ヘッドホン(HP-50A)はヤマハが特に楽器用に開発したもので、たいへん軽くて、耳にあたる部分も柔らかく、エレクトーンの特続音もクリアな音色で聞くことができます。

長くお楽しみいただくために

エレクトーンをいつまでもお楽しみいただくためには日頃のお手入れがかんじんです。

ピアノやオルガンと同じ取り扱いをしていただければ問題ありませんが、特に次の点にはご注意ください。



- 使用後は必ず電源スイッチを切ってください。
- 直射日光は避けてください。
- 外装の塗装はビニールと化学反応をおこしますので、ビニール製のカバーはご使用にならないでください。
- 湿気や熱も避けてください。
- 蓋の上には重い物をのせないようにしてください。
- 蓋を上を持ち上げないでください。
- 蓋の上にヘアピンやコイン等を置いたまま開けると、それが内部にはいつ故障の原因になることがあります。
- 鍵盤のお手入れは水を含ませた柔らかな布できれいにふきとって行なってください。アルコールやシンナー、ベンジンなどの薬品は絶対使わないでください。
- テレビ、ラジオをエレクトーンの近くでお使いになると、テレビ、ラジオに雑音が入る場合があります。そのときはエレクトーンからできるだけ離してご使用ください。
- エレクトーンには交換用のヒューズはついていませんが、もしヒューズが切れたと思われる場合でも、絶対にご自分では交換をなさらないで販売店もしくは、日本楽器電音サービス係までご連絡ください。
- 長くご使用にならない時や、雷が鳴っている時などは、電源コードをコンセントからはずしてください。

エレクトーン教室のご案内

お子様に正しい音楽教育を、とお考えのかたや、エレクトーンを自由自在に弾けるようになりたいというかたのために、ヤマハではエレクトーン教室を全国に開設しております。ヤマハエレクトーン教室は、自宅や学校、またお勤め先のすぐ近くにあり、どの教室でも《ヤマハ音楽教育システム》のカリキュラムによる指導を行なっていますから、地区によって水準が異なるようなことはありません。



エレクトーンスクール	対 象 / 小学生
	期 間 / 2年間
	レッスン / 週1回1時間
	年間44回
	5~10人のグループレッスン
エレクトーンメイト	対 象 / 中学生以上の初心者
	期 間 / 3ヶ月~6ヶ月のステップごとに進みます。
	レッスン / 週1回1時間
	5~10人のグループレッスン
ジュニア科エレクトーンコース	対 象 / 幼児科・エレクトーンスクールを卒業したかた
	期 間 / 4年間
	レッスン / 週1回1時間
	年間44回
	5~10人のグループレッスン

このような現象は故障ではありません

下記のような、故障でない現象でサービスを依頼された場合には、保証期間中であっても実費料金をいただきます。

●電気的な現象

現象	原因	解決法
スイッチを入れた瞬間、ボンと音がする。	メインアンプ内部に電気が流れたため。	エレクトーンが作動する証拠です。ご心配入りません。
スイッチを入れても、すぐに音が出ない。	エレクトーンが正しく作動するためには、5秒くらいの時間があるため。	エレクトーンが正確に作動する証拠です。ご心配入りません。
時々雑音が入る。(ガリッとかポツンという雑音)	①家庭の電気冷蔵庫、洗濯機など電気器具の電源入、切り時。 ②市街地のネオンサインの故障、電気ドリルなど。	①原因と思われる機器からなるべく離れたコンセントを使う。 ②ネオンなどの故障を修理する。 ③原因不明あるいはご不審の点は日本楽器各支店電音サービス係までご相談ください。
ラジオやテレビ等に雑音が入るときがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあるとき。	ラジオやテレビはなるべくエレクトーンから離してご使用ください。
ラジオやテレビ等の電波が入るときがある。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるとき。	どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店電音サービス係までご相談ください。
トーンレバーによって、鍵盤位置による音量のバラツキがある。	一般に電子楽器では音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量バラツキをなくすことは非常に困難です。エレクトーンではどの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。	音の強さや音色はエレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあるので、どうしても気になる時はお求めの楽器店あるいは日本楽器各支店電音サービス係までご相談ください。
ヘッドホンで練習のとき、ブーンという電気の雑音(ハム)が気になる。	本体のスピーカーで音を出している時はあまり気にならないのに、ヘッドホンを使って練習する際ブーンという電気のうなり雑音(ハム)が気になることがある。	エレクトーン本体の電源プラグをコンセントへ逆にさしこんでみてください。
ペダル鍵盤は同時に2音を押しても1音しか出ない。 また、上・下鍵盤は同時に8音押しても、それぞれ7音しかでない。	ペダル鍵盤は1音、上・下鍵盤はそれぞれ7音ずつの音しか出ないようにになっています。これは、演奏上、設計上の理由からです。	ペダル鍵盤は高音優先、上・下鍵盤は先におさえられた鍵盤を優先します。
エレクトーンに鼠が入って故障を起こした場合。	エレクトーンの内部に鼠が入り束線その他を切ったりするため。	保証期間中でもサービス料金を頂きます。鼠の入るおそれのあるところは、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店電音サービス係までご相談ください。実費にて防鼠処理をさせていただきます。
リズムックワウが、リズムにのらない。	ワルツ、スイングI、ボサノバとは連動しません。	左記以外のリズムと組み合わせて下さい。

● 取り扱いによる現象

現象	原因	解決法
電源を入れたまま振動やショックを与えると雑音が出る。	内蔵のリバースレーション装置に柔らかいスプリングを使用しているため、振動が伝わるため。	①使用中は、大きな振動やショックを与えないようにしてください。 ②エレクトーンはぐらつかないように設置してください。 ③移動する時は、電源スイッチを切るか、リバースレバーを上に向けてリバースがかからないようにしてから移動してください。
アタック4'がきかない。	サステインをONにしていると、アタック4'はききません。	アタック4'が必要なときは、サステインをOFFにしてください。
シングルフィンガーコードまたはフィンガードコードのボタンを入れてもオートベース/コードが作動しない。	オートベース/コードは下鍵盤およびペダル鍵盤のトーンレバーがセットされていなければ音は出ません。また、オートリズムが作動していない時はリズムをきざまず持続音となります。	必ず下鍵盤、ペダル鍵盤のトーンレバーをセットしてください。また、リズム伴奏がしたい時は必ずオートリズムをONにしてください。
シングルフィンガーコードで下鍵盤の高い方を押さえても低い方を押さえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーコードでは定められた1オクターブの中の音が出るようになっています。同じ音名であれば、下鍵盤のどの位置を押さえても同じ音程で和音が出ます。	
オートベース/コードでフィンガードコードとメモリーのボタンを押すと、おさえたはずの和音とは違った和音がきざまれる。	コードをチェンジするとき、瞬間的に関係のない鍵盤に触れて、それを機械がすばやくキャッチするためです。	①正確にコードチェンジを行なってください。 ②メモリーボタンをOFFにしてください。
下鍵盤が鳴りっぱなしになってしまう。	①オートベース/コードのコンスタントがONで、さらにメモリーもONになっているためです。 ②オートリズムがきざまれていて、メモリーがONになっているためです。	オートベース/コードのメモリーボタンをOFFにしてください。
オートリズムのボタンを同時に2つ押しても、1つのリズムしかでてこない。	上下のリズムは、組み合わせてもきれいにならないので、組み合わせられないようになってます。上側のリズムが優先されます。	上下のリズムは、組み合わせないようにして下さい。

● 楽器としての現象

現象	原因	解決法
音が割れる。(共鳴する、あるいはビビる)	エレクトーンの音は持続音ですから、周囲の戸棚、窓ガラスその他の器物に共鳴することが多くあります。	①音量を小さくする。 ②共鳴物を取り除く。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上鍵盤高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑で(特に高音、低音では)実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律するので、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。	

サービスと保証について

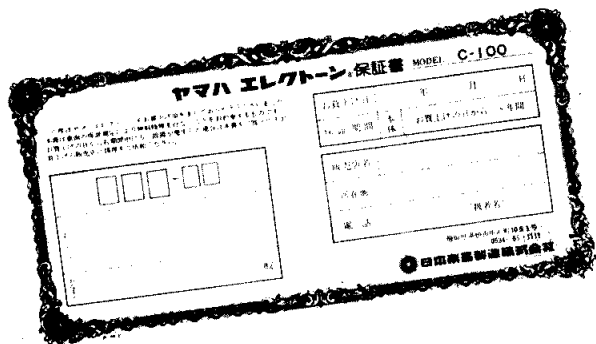
保証

エレクトーンのご保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1カ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡し致しますので大切に保管下さる様お願い致します。

又、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認下さい。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申しあげるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンの内裏にありますが保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れても捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせて頂きますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。

お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がありましたらその節にお申しつけ下さるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。

2. 保証書は、サービスにお伺いした時に今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。尚、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介します。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめ下さい。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(16~17ページの「このような現象は故障ではありません」参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせ下さい。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせ下さい。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音が出る●エレクトーンの音を出さなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。
3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせ下さい。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただきますために是非お願いいたします。

●これだけはお知らせ下さい。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。
症状……なるべく正確に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡下さい。
3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記お問い合わせ先にご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハのサービス網

全国のヤマハ特約楽器店と下記日本楽器支店が責任をもってアフターサービスを行なっております。

●お問い合わせ先

本 社 / 浜松市中沢町10-1・電音サービス課
☎(0534)65-1111

北海道支店 / 札幌市中央区南十条西1-4・電音サービス係
☎(011)512-6111

仙台支店 / 仙台市原町南目薬師堂北2-1・電音サービス係
☎(0222)95-6111

千葉支店 / 千葉市千葉港2-1千葉中央コミュニティセンター内・電音サービス係 ☎(0472)47-6611

関東支店 / 高崎市歌川町8番地高崎センター内・電音サービス係 ☎(0273)27-3366

東京支店 / 東京都中央区銀座7-9-18パールビル内・電音サービス係 ☎(03)572-3111

横浜支店 / 横浜市中区本町6-61-1・電音サービス係
☎(045)212-3111

浜松支店 / 浜松市幸町3丁目5-8・電音サービス係
☎(0534)74-0311

北陸支店 / 金沢市泉本町7-7・電音サービス係
☎(0762)43-6111

名古屋支店 / 名古屋市中区錦1-18-28・電音サービス係
☎(052)201-5141

大阪支店 / 大阪府吹田市新芦屋下1-16・電音サービス係
☎(06)877-5151

神戸支店 / 神戸市灘合区浜辺通り6丁目1-36・電音サービス係 ☎(078)232-1111

広島支店 / 広島市安佐南区祇園町西原862・電音サービス係
☎(08287)4-3787

四国支店 / 高松市西宝町2丁目6-44・電音サービス係
☎(0878)33-2233

九州支店 / 福岡市博多区博多駅前2-11-4・電音サービス係
☎(092)472-2151

エレクトーン豆知識

●アタック音

音の立ち上がりを鋭くする効果です。エレクトーンにはアタック音がついています。

●アタックレングス

アタック音の消えるまでの時間をコントロールする効果です。

●アップパー

アップパーとは「上」という意味。エレクトーンでは主に、上鍵盤関係のことをさします。

●アップパープリセット

プリとは「あらかじめ」という意味。つまりあらかじめセットされた音色のことで、上鍵盤の音づくりに使います。

●EXP-IN

この端子にリズムボックスやシンセサイザーなどを接続すると、エレクトーンのエクスプレッションペダルで音量変化をつけながら演奏することができます。

●エクスプレッションペダル

エクスプレッションとは「表現する」という意味で、音の強弱を表現するペダルのことです。

●ABC

エレクトーンでは、オートベース/コード(Auto Bass Chord)のことを、頭文字をとってこう呼ぶことがあります。

●ABCトーン

オートベース/コードのボタンを入れると、下鍵盤のフルート以外の音色(ホルンやチェロなど)は、自動的にピアノやギターなどの音色に切り換わります。これをABCトーンといいます。

●エフェクト

サステインやビブラートのような「効果」のことです。

●AUX-IN

この端子にステレオやテープレコーダーを接続すると、レコードやテープの音をエレクトーンのスピーカーから鳴らして共演することができます。

●AUX-OUT

テープレコーダーに録音したり、他のアンプと接続して音を出す場合に利用する端子です。

●オクターブ

ある音に対して、8度、音程がはなれた音をさします。

●オーケストラトーン

フルート以外の、ストリング、ホルン、チェロなど、オーケストラで使われる楽器の音色をさします。

●オートアルペジオ

アルペジオとは和音を分散して連続的に奏でる奏法のこと。エレクトーンでは、このアルペジオが自動的にかけられます。

●オートベース/コード(ABC)

エレクトーンを演奏するとき、このボタンをセットすると、下鍵盤とペダル鍵盤の音色による複雑な伴奏が簡単にできる自動伴奏機能です。

●オートリズム

エレクトーン演奏のバックに、ワルツやロックなどのリズムを自動的に流すお楽しみ機能です。リズムは、ドラムやシンバル、ボンゴなどの音できざまれます。

●オルタネイティングベース

音階の1度と5度の音を交互に使うベース奏法のことです。

●音色

「ねいろ」のことです。エレクトーンの特長には、フルート、ホルンなどの音色名がついていますが、これはその楽器と“同じ音”ということではなく、あくまでも、その楽器の音を“イメージ”してつくった、エレクトーン固有の音です。

●音程

音と音との間隔のことで、同じ高さの音を1度音程、隣の音を2度音程、そして8度音程を1オクターブとよんでいます。

●音名

音の高さを呼びあわす名前のことです。日本語ではハニホヘトイロ、イタリア語ではドレミファソラシ。エレクトーンでは、特に伴奏をつける場合、アメリカやイギリスで使っているC D E F G A Bをよく使います。

●音量

音の強さのことで、dB(デシベル)、phon(フォン)などの単位であらわします。音は、波形や周波数が同じでも、この音量が異なるとちがった感じの音に聞こえます。

●カスタム-ABC

ABCのボタンのひとつで、このボタンを押しておくと、下鍵盤の音はおさえた通りの和音で伴奏がきざまれ、ペダル鍵盤の音は踏んだ音を基音にしたコードの伴奏が自動的にきざまれます。(オートリズムに連動します)

●カブラー

ひとつの鍵盤をおさえることによって、いくつもの鍵盤を同時におさえたのと同じような厚みのある音を得ることができる効果のことです。

●クリック・ストップ

トーンレバーを前後にゆっくり動かしてみると、途中2カ所に軽い手ごたえがあって、レバーをセットできるようになっています。これをクリック・ストップといいます。

●コード

和音のことで、C、C7、Cmなどのアルファベットで表現します。エレクトーンでは、主にコードによって伴奏をつけます。

●コンスタント

ABCのボタンのひとつで、シングルフィンガーコードまたはフィンガードコードとあわせて使います。ABCとオートリズムの連動をキャンセルして、下鍵盤、ペダル鍵盤の音は持続音になります。

●サステイン

鍵盤から指を離してもしばらく音が残る「余韻」をつける効果です。

●シングルフィンガーコード

ABCのボタンのひとつです。このボタンを押しておくと、下鍵盤でコードの基音(例えばCコードならド)をおさえるだけで、自動的に和音伴奏ができます。(オートリズムに連動します)

●シンクロスタート

シンクロとは「時を同じくする」という意味です。エレクトーンでは、下鍵盤またはペダル鍵盤をおさえると同時に、オートリズムやABCをスタートさせるスイッチのことをいいます。

●スタッカート(♩)

音を短く切って軽快に演奏するように指示する記号です。サステインを使って演奏するときはスタッカートで弾いた方が、音にこりません。

●ストリング

「弦」のことで、エレクトーンでは弦楽器系の音色をさしています。

●スピネット

もともとは、15世紀から18世紀にかけて使用されていた小型ハープシコードのことです。エレクトーンでは、NEW C-シリーズをはじめとする小型家庭用機種のことをさしています。

●スラー(—)

音を流れるようになめらかに、次の音に移行させる弾きかたを指示する記号です。

●セブンスコード

ある音を基音に7度の音が入った和音です。C7、A7というように表わします。

●タイ(—)

同じ音程の音符が続いて並んでいるとき、指を離さないで続けて弾くことを指示する記号です。

●ディレイビブラート

鍵盤を押してからしばらくして、ビブラートがかかる効果です。

●テンポインジケータランプ

ワルツやロックなどオートリズムの各リズムの第1拍目を表示する(赤く点灯)ランプです。ただし、シンクロススタートスイッチをいれて、演奏をはじめる前には4分音符の単位で点滅します。

●テンポコントロール

オートリズムのリズムをきざむ速さ(テンポ)を早くしたり遅くしたり調節するつまみです。

●トレモロ

音を同じ音程でくり返して、音をうねらせる効果です。エレクトーンでは、トーンレバー音色を電氣的に操作して、この効果が得られます。

●ニーレバー

エレクトーンの前板下にあるレバーで、ひざで右に動かして操作します。これを使うと、演奏中、任意にサステインをかけることができます。

●ノーマル

A B Cのボタンのひとつで、A B Cをキャンセルする場合(ふつうの演奏をするとき)に使います。

●パイロットランプ

表示ランプのことで、これが赤く点灯すればエレクトーンに電気が流れていることを表わします。

●ハーブシコード

チェンバロともいわれ、16~18世紀頃によく使われていた鍵盤楽器です。エレクトーンにはこの楽器の音をイメージしてつくった音色があります。

●ビブラート

音をこざざみにふるわせ、うるおいをつける効果です。ムード的な曲やスローテンポの曲に向いています。

●ファンブロック

ファンとは「楽しみ」のことで、エレクトーンでは、オートリズムやオートベース/コード、オートアルペジオのような「お楽しみ機能」をさしています。

●フィート

音の高さを表わすもので、ノと書きます。もともとパイプオルガンのパイプの長さによって来しています。

●フィンガードコード

A B Cのボタンのひとつで、このボタンを押して下鍵盤でコードをおさえると、下鍵盤とペダル鍵盤の音色で、自動的に伴奏できます。(オートリズムに連動します)

●フェイド・アウト

F・Oと表示されていることもあります。音楽では、音をしだいに小さくして、自然に消えていくような弾き方をするように、指示する記号です。

●フェルマータ(∩)

音符よりも音を長く伸ばして弾くように指示する記号です。

●フットスイッチ

エクスプレッションペダルの左奥にあるゴムのスイッチで、右足の先で左に押して操作します。これを使うとオートリズムやオートアルペジオなどを一時的にストップさせることができます。

●ペダルス

エレクトーンでは主にペダル鍵盤(足鍵盤)関係のことをさします。

●マイナーコード

短調の和音です。Cm、Amのように表わします。

●マスターボリューム

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみです。

●マニュアル

手鍵盤のことです。

●マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスを調節するレバーです。

●メジャーコード

長調の和音です。C、Fというように表わします。

●メモリー

シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタム-A B Cを使って演奏しているとき、このボタンを押すと、下鍵盤から指を離しても、同じ伴奏がメモリー(記憶)されて自動的にくり返されます。

●リズムックワウ

オートリズムやA B Cと合わせて使うと、おもしろい効果がでる音色で、リズムにあわせて“ワウワウ”というような音が出ます。

●リズムセレクター

ワルツ、ロック、スイング、ルンバ、マーチなど、お好みのリズムをセットするボタンで1つ、あるいは2~3つ組み合わせることもできます。

●リタルダンド(rit.)

曲の終わりなどに、テンポをだんだん遅くして弾くように指示する記号です。

●リバーブ

広い部屋で演奏しているように音がひろがる一種の残響効果です。

●レガート

「なめらか」に演奏するように指示する記号です。スラーよりももつと広範囲な、イメージ的な表現です。

●レジストレーション

演奏にあたって、音づくりのためにレバーやボタンの組み合わせを決めることです。

●ロワー

ロワーとは「下」のこと。エレクトーンでは主に、下鍵盤関係のことをさします。

本社・工場／〒430 浜松市中沢町10-1
 TEL. 0534(65)1111
 東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
 TEL. 03(572)3111
 銀座店／〒104 東京都中央区銀座7-9-14
 TEL. 03(572)3131
 渋谷店／〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7
 TEL. 03(476)5441
 池袋店／〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2
 TEL. 03(981)5271
 横浜支店／〒231 横浜市中区本町6-61-1
 TEL. 045(212)3111
 千葉支店／〒280 千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内
 TEL. 0472(47)6611
 関東支店／〒370 高崎市歌川町8番地/高崎センター内
 TEL. 0273(27)3366
 大阪支店／〒564 吹田市新芦屋下1-16
 TEL. 06(877)5151
 心斎橋店／〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39
 TEL. 06(211)8331
 神戸支店／〒651 神戸市灘合区浜辺通6丁目1-36
 TEL. 078(232)1111
 四国支店／〒760 高松市西宝町2丁目6-44
 TEL. 0878(33)2233
 名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
 TEL. 052(201)5141
 北陸支店／〒921 金沢市泉本町7-7
 TEL. 0762(43)6111
 九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
 TEL. 092(472)2151
 福岡店／〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内
 TEL. 092(721)7621
 魚町店／〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1
 TEL. 093(531)4331
 北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター内
 TEL. 011(512)6111
 仙台支店／〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1
 TEL. 0222(95)6111
 広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
 TEL. 0822(48)4511
 浜松支店／〒430 浜松市田町32
 TEL. 0534(54)4115

エレクトーン®は当社の登録商標です。



YAMAHA

日本楽器製造株式会社